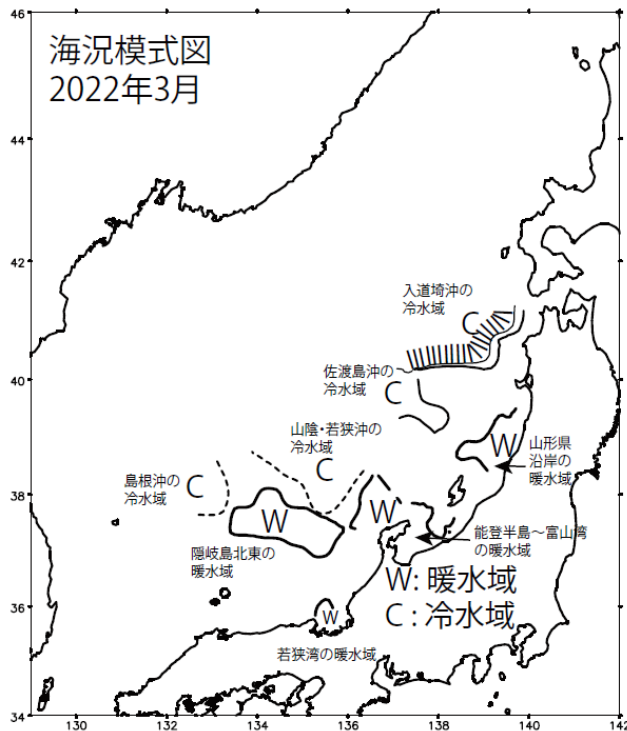




2022年度 第1回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2022年4月中旬～6月)のポイント



○隠岐島北東の暖水域はやや西進し隠岐諸島北方に分布する。若狭湾、能登半島～富山湾、山形県沿岸の暖水域は定在しつつ岸沿い方向へ広がり、若狭湾～青森県の日本沿岸に沿った暖水域を形成。

○島根沖の冷水域の張り出しは、はなはだ小さくはなはだ離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 上原

海洋環境部（新潟） 渡邊、井桁

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2022年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2022年4月中旬～6月）

- (1) 隠岐島北東の暖水域はやや西進し隠岐諸島北方に分布する。若狭湾、能登半島～富山湾、山形県沿岸の暖水域は定在しつつ岸沿い方向へ広がり、若狭湾～青森県の日本沿岸に沿った暖水域を形成。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、はなはだ小さくはなはだ離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（(1)は2021年11月～22年3月、(2)～(3)は2021年11月～22年2月、(4)は2021年11月）

- (1) 11月に隠岐島西方に見られた暖水域は12月まで停滞したが2月に消滅した。隠岐島北東で見られた暖水域は12月まで定在したが2月以降やや北上。11月に佐渡島北方に見られた暖水域は、12月まで停滞した後に、2月に弱体化しつつ北上し、3月に消滅した。3月に若狭湾、能登半島～富山湾、山形県沿岸に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月はやや小さく接岸距離は平年並み、12月はやや小さくはなはだ離岸、2月は欠測により不明。山陰・若狭沖の冷水域は、11月は規模、接岸距離とも平年並、12月はやや小さくやや離岸、2月はやや小さく接岸距離は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、11月はやや小さくやや離岸、12月はやや小さく接岸距離は平年並み、2月はやや小さくかなり離岸。入道埼沖の冷水域は、11月ははなはだ小さくかなり離岸、12月は欠測により不明、2月は規模・接岸状況ともに平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、11月は、本州沿岸、青森西方、大和碓付近で“やや高め”～“かなり高め”、対馬海峡で“かなり高め”～“はなはだ高め”。12月は、島根～山口北方で“やや高め”～“かなり高め”、青森西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”新潟県下越沿岸で“はなはだ低め”以外は“平年並み”。2月は、能登半島周辺～佐渡島周辺、青森西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”以外は“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“かなり高め”。

3. 現況（2022年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐島北東、若狭湾、能登半島～富山湾、山形県沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、はなはだ小さくはなはだ離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、やや小さくやや離岸。佐渡沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さく接岸距離は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、能登半島西岸、青森西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“平年並み”。

(註) 引用符（ ” ” ）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| ” はなはだ高め（低め） ” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| ” かなり高め（低め） ” | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ） |
| ” やや高め（低め） ” | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ） |
| ” 平年並み ” | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所